

第1回 「福島町健康づくり推進計画策定会議」会議録

日 時：平成19年5月21日(月)午後7時04分から8時09分

会 場：健康づくりセンター2階健康づくり研修室

出席者：上嶋秀司、富山雅則、小笠原実(会長)、住吉数雄、相川徳人、中塚徹朗(副会長)

常磐井美穂子、川岸勤、花田春夫、三鹿菊夫、丁子谷雅男、木村修

(欠席者：福士公子、道下絹子、塚本謙也、吉村次郎)

事務局：町民課福祉グループ(工藤参事、鳴海総括主査、西田主査)

工藤参事	~開会19:04~ ただ今から第1回目の「福島町健康づくり推進計画策定会議」を開催いたします。開催に当たりまして、村田町長より開会のあいさつを申し上げます。
村田町長	開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。 少子高齢化が進み、特に福島町の場合は高齢化率が34%と、人口が僅か5千6百人程度のうち、1千8百人程度が高齢者という状況の中で、やはり高齢者を中心に元気に過していただくことが、私どもを含めて皆さんの大きな願いだと思います。そのような中で福島町健康づくり推進計画策定会議、また、この計画策定に当たって快くご承諾くださったことを改めて感謝とお礼申し上げます。また、後ほど事業の中でご説明があらうと思っておりますが、国の方では頑張る地方応援プログラムという事業を募集してございます。そのような中で、先般、小笠原先生等ともいろいろな形の中で協議されておりました。肺炎球菌予防の関係を実は私ども65歳以上の方全員に接種することで、事業の導入を検討しております。 このような事業を実施することで、高齢者の予防を図っていきながら高齢者の病気に対する意識の高揚を図ることで、健康に関して再認識していただけるのかと考えております。 そのようなことで、今後も地域の医歯会と相談しながら、指導助言をいただきながら、できる施策を前向きに検討していきたいと思っております。 最後に、福島町健康づくり推進計画については、早急に策定が必要であり将来の町づくりの中でも非常に大事なことでございます。ご案内のように関係団体として医歯会、健康フェスティバル実行委員会、また、健康づくり推進委員、そしてまた、町民代表として町内会連合会、民生委員協議会、町PTA連合会、国民健康保健運営協議会、介護保険運営協議会、そして町の関係課長が集まっております。どうぞひとつ、時間的に夜の会議になるかと思っておりますが、この1年間計画の取りまとめについてご協力をお願いいたします。 また、この機会に一言付け加えさせていただきますが、平成17年度に作成した自立プランの関係ですが、平成18年度が初年度でございます。 当初予算では、1億8千万円の基金を取り崩して予算を組みましたが、やはり多くの町民の皆様方のご協力を得て、18年度は逆に基金を取り崩すことなく、7~8千万円程度の繰越金が生ずる見込みとなっております。ですから基金を取り崩さず、逆に4千万円程度積み立てできるような会計決算を見込んでおります。 5月一杯で出納閉鎖期間が終了いたしますが、そのような状況で進んでおります。これもひとえに、多くの町民の皆様方の協力、あるいはご迷惑をおかけしたこともあるわけですが、明るい状況の中で決算をむかえることができるのではないのかなと、そのようなことをこの機会にご報告いたします。 今日は最初の会議ということで、この後、会長の選任などが予定されておりますので、忌憚のない意見を出していただき、計画策定にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

工藤参事	<p>ありがとうございました。この後町長は退席いたしますので、ご了承ください。 なお、ここで、ご出席の方を紹介いたします。 (メンバー及び事務局の紹介) それでは、議事に入りたいと思います。 議事の1番目、福島町健康づくり推進計画策定会議設置要綱について、事務局からご説明いたします。</p>
鳴海総括主査	<p>それでは議事の1番目、福島町健康づくり推進計画策定会議設置要綱についてご説明いたします。1ページをご覧ください。 当会議を運営するにあたり4月24日付けで要綱をすでに公布しております。 内容については、先に皆様のところへ送付をしておりますので、事前に一読いただいていることと思いますので、簡単にご説明いたします。 第1条に設置の目的を掲げております。この会議の目的は、国の健康増進法第8条第2項の規定に基づく「市町村健康増進計画」として、町民の健康づくりの指針となる、各階層を対象とした福島町健康づくり推進計画の策定を目的としています。なお、4ページに健康増進法の抜粋を資料として添付しておりますので、後ほど参考としてください。 第2条に会議で取り組む事項として、3点ほど記載がございます。 第1点目は、推進計画の策定に関すること、第2点目は、計画の円滑な推進と評価に関すること、3点目として、その他の事項に関することを定義しております。 第3条には組織に関する事項を定め、ただいま工藤参事から紹介がありましたように、関係団体代表者、町民代表者と役場の関係課職員による構成とし、メンバーは全体で16人となっております。 第4条では、会長及び副会長の選任方法等について、第5条では会議の運営方法について、第6条では、専門部会の設置に関する事項を定め、第7条で会議の事務局として町民課福祉グループが担当すると定めております。 なお、健康づくり推進計画の策定にあたっては、本来ですと委員会を組織して運営することが一般的ですが、当町の場合、先ほども町長のあいさつにもありましたように現在、自立プランを推進している経緯もあり、大変皆様にはご無理を言って申し訳ありませんが、自主的参加のもとによる手弁当とし、策定会議形式とさせていただきますので、予めご了承ください。そういうことで、本来要綱の中で任期などについても定めなければならないのですが、特に任期を定めず、策定は1年をめどにまとめあげたいと考えています。また、次年度以降については、評価なり行動計画を策定することになりますので、継続して協力をお願いします。また、皆さんには仕事を抱えて、お忙しいこととは存じますが、会議の開催は午後7時からを基本とさせていただきますことを重ねてご了承ください。 以上簡単ですが福島町健康づくり推進計画策定会議設置要綱の説明とさせていただきます。</p>
工藤参事	<p>ただ今、事務局より福島町健康づくり推進計画策定会議設置要綱の説明がありました。ただ今、事務局より福島町健康づくり推進計画策定会議設置要綱の説明がありましたが、このことについて何かご意見や質問があれば受けたいと思います。</p>
メンバー	<p>今日、関係団体や町民の代表の方も入っていますので、今、鳴海総括から説明がありました部分で、1点だけ確認させていただきたいのですが、第2条第1号で健康づくり推進計画があり、第2号で計画推進の円滑な推進のための総合調整及び評価に関する事項が入っていますよね。それで今話があったように当面任期を定めなくて1年で策定会議ということですから、すめるといっていいんでしょう。</p>

	<p>うが、以後の検討の部分で2号の箇所を踏まえて書いたということで了解してよろしいのでしょうか。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>ご質問の件ですが、基本的に策定には1年でまとめあげるスケジュールで考えています。今回策定するものは基本計画的なもので、基本的な方向性を計画に中に謳いこみます。そうしますと当然細かな具体的な事業内容などの行動計画は次年度以降になろうかと思えます。そのようなことで皆様には2ヵ年の中でご協力をいただくということで考えています。</p>
<p>メンバー</p>	<p>今の件で、私の場合2年といえますと充て職で1年なんですがどのようになりますか。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>今回の場合は基本的に充て職という考えはなく、各団体から町長が指名し、本人のご承諾をいただいているということで、役職を退いても2年間継続でお願いしたいと考えています。</p> <p>なお、検討をする中で計画に参画してないと次年度以降の評価も難しい点がありますので、よろしくご理解ください。</p>
<p>工藤参事</p>	<p>次に会長及び副会長の選出について、会議設置要綱の第4条に会長及び副会長はメンバーの互選によってこれを定めるとありますが、どのように選出したらよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局一任という声あり)</p>
<p>工藤参事</p>	<p>今、事務局一任という声がありましたので、事務局の案をお願いいたします。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>それでは事務局の案ということで、会長には関係団体から健康フェスティバル実行委員会会長の小笠原実さんを、副会長には町民代表から町PTA連合会会長の中塚徹朗さんをお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p> <p>(承認の拍手あり)</p>
<p>工藤参事</p>	<p>承認の拍手がありましたので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、小笠原会長ごあいさつをお願いいたします。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>改めましてお晩でございます。</p> <p>ただ今、慎重なご審議で選出されました小笠原です。よろしくをお願いいたします。</p> <p>設置要綱を見ますと自分たちが生まれ育った故郷で、健康的でいきいきと暮すためという趣旨を持った策定会議なものですから、なにか大きな目標を持ったもので、私はこういうような会議の会長というのは不慣れでございますけど、今日のメンバーの方々、また、事務局の方々の協力なり応援をいただきまして1年間この計画の策定のまとめに努めたいと、いま決意いたしましたのでよろしくをお願いいたします。</p> <p>(拍手)</p>
<p>工藤参事</p>	<p>次に副会長に選出された中塚さんをお願いいたします。</p>

中塚副会長	<p>今、決めていただきましたが、小笠原会長の下、微力ですが協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>(拍手)</p>
小笠原会長	<p>それではこれから会の進行を進めていきたいと思います。</p> <p>議事の(3)の健康づくり推進計画策定について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
鳴海総括主査	<p>議事の3番目、健康づくり推進計画策定についてご説明いたします。</p> <p>2ページをお開きください。</p> <p>まず、1点目として、健康づくり推進計画の位置づけですが、国のほうでは、平成12年に21世紀における日本の健康寿命の延伸などを目的として、健康日本21を策定しております。</p> <p>また、これらを推進する法的基盤として、平成14年8月に健康増進法を制定しており、第8条第2項に地方計画をつくることも努力義務として規定されております。なお、3ページ及び4ページに健康増進法の資料を掲載しておりますので、参考としていただきたいと思います。ただ、3ページの経緯のなかで、健康増進計画の策定年月が平成14年7月となっておりますが、平成14年8月の誤りですので訂正をしていただきたいと思います。</p> <p>国の制度を受け北海道においては、平成13年3月に道民の健康づくりの基本指針となる「すこやか北海道21」を策定しております。なお、道においてはこの計画を平成18年度に改定し、見直しを加えています。</p> <p>町の健康づくり推進計画策定にあたっては、国の基本方針及び都道府県健康増進計画を勘案しながら福島町独自の戦略的な基本計画を策定することとなります。</p> <p>なお、一方、町における計画の位置づけですが、上位計画として第4次福島町総合開発計画がございます。総合開発計画では、重点目標に「健康で快適に暮せる環境の創出」、施策体系として「全ての源「健康・福祉」の充実」が掲げられています。</p> <p>また、福祉分野の全体計画として福島町地域福祉計画があり、すでに高齢者保健福祉計画、障害者福祉計画及び次世代育成支援行動計画が策定されており、健康づくり推進計画もこれら既存の計画と同列の計画となります。</p> <p>なお、策定に当たっては、これら既存の計画と整合性を図った計画を策定することが必要です。</p> <p>次に2点目の背景と必要性についてですが、5ページをご覧ください。</p> <p>今、地域に求められていることは、健康づくりからの元気なまちづくりの戦略化が必要と言われております。</p> <p>前段の位置づけの部分と重複する部分がありますので、説明を簡略化させていただきます。</p> <p>文章の下段部分に必要性が、下から5段目ほどに書かれておりますが、国の「健康日本21」や北海道の「すこやか北海道21」の考え方に沿って、これまで取り組んできた健康づくり事業をさらに効果のあるものとしていくことは、町民の元気づくりとともに、今日の医療制度改革や社会保障制度改革に伴う町の重責を果たしながら健全な行政運営を進めていく上でも重要であり、町の施策として一体的な健康増進計画を策定することが急務とされています。</p> <p>一番下に図を示しておりますが、国が進める健康日本21の目標は、先ほどもありましたように「健康寿命の延伸と住民の生活の質の向上」です。</p> <p>現状の課題点として、左の項目にありますように、要介護高齢者等の増加、生</p>

活習慣病予備軍の増加、また、メタボリック・シンドローム対策の緊急性などがあげられます。これらの原因が医療費の高騰を招いております。

こうした背景の下で、福島町においても町民の健康づくりを推進し、結果として医療費の適正化を図る意味からも町独自の健康増進計画を策定することが急がれています。

次に3点目の計画策定の基本的な考え方についてですが、6ページをご覧ください。

健康の実現は個人の健康感に基づき一人ひとりが主体的に取り組む課題となっています。しかし、個人の力により健康を実現することは、なかなか現実的には難しい問題でもあり、個人の力による健康を実現するために社会全体で支えてゆくことが必要不可欠と言われております。

健康づくり推進計画の策定の目的は、福島の“まち”に住むすべての人が、一人ひとり健康でいきいきと生涯を暮すために、個人、地域及び行政がどのようにすればよいのかを提言するものです。

町民が一体となった健康づくりを総合的かつ効果的に推進し、各階層において自由な意思決定に基づき健康づくりに取り組むための第一歩とするものです。

一人ひとりが健康を実現することで、“まち”が元気を取り戻す“健康循環型”の町づくりをめざすことを最終目標としています。

なお、策定にあたって、次の4点を提案するものであります。

一つ目は、会議メンバーが町民の健康実現に向けて情報・意識を共有する必要があります。

二つ目は、背伸びすることなく、実現が可能でさらに実効性のあるものとすることが重要となります。

三つ目は、国及び道との整合性を図りつつ、福島町が持っている地域特性や歴史観を尊重し、福島にあった独自の計画を作成する必要があります。

最後に、計画策定の議論の過程において、前例にとられることなく、できない、むりだといわず、前向きに発言をお願いいたします。

下の図にありますように、町民一人ひとりが健康になるために、健康づくり推進計画を作成し、計画を的確に実行、推進することで、一人ひとりの健康が実現され、それにより町全体が元気になり、最終的に町民への福祉サービスとして還元されることとなります。その結果として町の最大の役割である住民の福祉の増進を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上、健康づくり推進計画策定についての説明といたします。

小笠原会長

ありがとうございました。

今、鳴海さんから健康づくり推進計画策定について、計画の位置づけについて、また、背景と必要性について、さらに、計画策定の基本的な考え方について、説明がありました。

これについて、計画の位置づけ及び背景と必要性については報告ということですのでよろしいでしょうか。特に付け加えたりする点などがありましたらお願いいたします。

ま、基本的な考え方に沿って具体的なことを決めていくことになるんだと思います。

まあ、こういう会議というのはなかなか発言することが難しいと思いますが、どうぞ忌憚のないご意見、発言等をお願いいたします。

メンバー

現在渡島管内で計画を策定している市町村がありましたら状況をお知らせください。

小笠原会長	そうですね、事務局お願いします。
鳴海総括主査	<p>渡島管内的には、七飯町の一町と聞いております。 (函館市もあるという声あり) あ、そうですね函館市もありますね。あと全道的な状況としては、4割程度の市町村がすでに計画を策定しております。</p>
メンバー	<p>先ほど説明があったように、法的には努力目標ということになっていますので、いつまで作りなさいということではないけれども、福島町とすれば住民の福祉の増進も含めて、計画を策定するということですね。</p>
鳴海総括主査	<p>そうですね、今まで我々福祉サイドの方で、健康に関する施策を展開させていただいていますが、基本的に健康に関して全体を網羅するような計画がないなかで、担当レベルが個々に行ってきたものですから、全体を網羅したような計画を策定して、その計画に基づいた施策を展開することが理想的と考えております。</p> <p>それと、今回後の方で説明しますが、健康診査の関係が平成20年度から制度が大きく変わり、特定健診へ移行することとなります。その中でも特定健診に関する計画書を各市町村で作りなさいということで、これは国からの必須事項ということで、それと本来は、健康増進計画とリンクした中で作ることが理想ですので、本来努力目標ですが一緒にすることがベストと考えております。</p> <p>そのような時期的なものも今回タイミングとしていいのかなと感じております。</p>
小笠原会長	<p>渡島では、七飯町と函館市だけという状況で、実はこれ5年で中間見直しといえますかデータといえますか、それについて事務局で捉えている点がありましたらお願いします。</p>
鳴海総括主査	<p>ま、データといえますか、国の方では先ほど説明いたしました、健康日本21を平成12年に策定しました。その計画が5年を経過しまして、国ではその中間評価をしております。そういう評価の中で、5ページにも書かせていただきましたが、健康日本21評価手法検討報告としてまとめて、各市町村へ配布をしてございます。それを受ける形で各市町村では、見直しや新たに計画を策定するなど作業を進めております。</p>
小笠原会長	<p>健康日本21は皆さんもご存知だと思いますが、また、このたび事務局から事前に送付されたと思います。この中にもありましたが、いろいろなことで9のグループ、70項目について決められているわけですけど、具体的に肥満などの項目は、中間報告に出ていますあまり改善が見込まれていないという報告がされています。</p> <p>それからメタボリック・シンドロームという言葉が、ここ1~2年非常にマスコミを中心に、身近な言葉になって、メタボとして略称してメタボ、メタボとテレビや週刊誌になじみになり、メタボリック・シンドロームを中心とした特定健診が始まるということもありまして、この健康日本21もですね。2年間延長になったんですね。それで平成24年度までに延びました。その後、特定健診や保健指導へ移行するという流れになっています。</p> <p>そういったなかで、来年から始まる特定健診や保健指導を視野に入れながら、ということになります。</p> <p>この策定にあたって福島町独自のということも非常に必要なんですね、その辺のところで、皆様それぞれ自分、家族などに置き換えて、考えながら意見を出し</p>

	<p>てほしいなと思います。</p> <p>6ページにもありますように、町民一人ひとりの健康の増進ということで進めていこうということですが、かなり総論的な話なのですが、ま、個別に各論的に持っていかなければなりません。</p> <p>ま、今日は第1回目の会議ということで、このような資料に基づいて次回の会議まで考えていただきたい。</p> <p>それでは、意見等がないようであれば次に4番目の専門部会の設置について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>それでは4番目の専門部会の設置についてですが、策定会議設置要綱第6条に計画策定にあたって専門部会を置くことができると定められております。現況把握にあたっての様々な基礎データの整理や計画のたたき台を作成するため、町の関係課職員による専門部会を設置するものであります。よろしくご了承のほどをお願いいたします。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>はい、ただいま事務局から説明がありましたが、表紙の次に専門部会のメンバー構成があり、それぞれ町職員の担当ごとの氏名が載っていますが、これで構成することとしてよろしいでしょうか。追加するグループなどありましたら、ご意見をお願いいたします。</p> <p>(なしという声あり)</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>ないようなので、このメンバーで構成し、進めることとしてください。</p> <p>それでは、次に5番目の健康づくり推進計画策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>5番目の健康づくり推進計画策定スケジュールについてご説明いたします。7ページに1年間の大まかな策定のスケジュール(案)を記載しております。</p> <p>7月に第2回目の会議を予定しており、現状把握及び基礎データの整理、課題の抽出、町民アンケートの内容について検討します。</p> <p>10月には、町民アンケートの結果をまとめあげ、分析による課題の再抽出、それと目標設定の検討に入ります。</p> <p>12月には、推進計画の素案、そして2月を目途に最終案を整理できればと考えております。</p> <p>なお、検討状況に応じては、回数及び内容も変更される場合がありますので、予めご了承ください。</p> <p>以上簡単ですが、計画策定スケジュール(案)の説明を終わります。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>ただいま説明がありましたが、今年度中に5回の会議を予定しており、2ヶ月に1回の会議が入っています。町長のあいさつにもありましたように、みなさん忙しいことと思いますが、会議召集の際はよろしくお願いいたします。</p> <p>次にその他に関する資料を事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>その他事項として、報告事項1件と確認事項1件をご説明いたします。</p> <p>まず、1点目の報告事項ですが、資料として8ページをご覧ください。</p> <p>まず、1点目の報告事項ですが、「頑張る応援プログラム」についてとあります。</p> <p>これは、総務省が地方独自のプロジェクトを財政的に支援するもので、平成19年度から21年度までの3年間において、各年度別に最大3,000万円を地方交付税で財政支援するものです。</p>

	<p>この度の健康づくり推進計画策定についても、この事業の一環として実施することとしており、先ほどスケジュールで説明しましたが、町民アンケートの実施及び分析などの部分で専門的な民間業者を活用することとしております。また、計画策定にあたってこの会議と平行する形で、専門的見地での参画、意見も頂きながら検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、これについては6月の定例会で予算を提案し、承認された場合に実施することになってございます。</p> <p>次に2点目の確認事項として、みなさんのご意見をいただきたいのですが、9ページに平成19年度健康教育人材派遣事業実施要綱を資料として提示しております。</p> <p>この事業は、財団法人北海道健康づくり財団が「すこやか北海道21」の市町村における普及・啓発を支援することを目的とした事業で、講演会や研修会などを実施する際の講師招聘に係る経費を全額負担してくれる事業でございます。</p> <p>なお、健康づくり財団につきましては、健康フェスティバルでウォーキング教室を実施しておりますが、これらの事業に対して30万円を全額助成いただいております。</p> <p>事務局としては、この事業を活用して、メンバーを対象とした講習会、または、町民に健康づくり計画を広く啓発するための研修会などを、この制度を活用できればと考えておりますので、忌憚のないご意見をお願いいたします。</p> <p>また、最後になりますが、計画を確実に実現するためには、住民周知が必要不可欠と考えます。町の方針としても町民へ積極的に周知することとしており、今後、会議の内容等は、広報及びホームページで公開しますので、予め承ください。</p> <p>以上、その他の事項として3点の説明といたします。よろしくをお願いいたします。</p>
小笠原会長	<p>ただ今、事務局から説明を頂きました。特に9ページの健康教育人材派遣について、こちらの方の活用ができないかと思えます。どうでしょうか。</p> <p>というのは、この推進計画を策定していく上で、僕自身も医療に関わっていますが、今このように、国や道のほうで行われていることが、知っているようで知らないことが多いんですね。</p> <p>ですから一般の方、まして町民の大半は、そこら辺のことが情報として、何回でもいろんな場で勉強された方が良いんだと思います。</p> <p>そういった意味では、ここに「すこやか北海道21」の普及啓発を支援する事業ということが書かれています。ですからこういった講演会というものが、あるいは講習会といいますが、そういったものを実施するため、手を上げてみたいなどと資料を見て思ったのですが、みなさんどうでしょうか。</p> <p>内容としては、10ページに書かれているようなことですよ。</p>
鳴海総括主査	<p>そうですね、講師の謝金と旅費について、財団の方で面倒を見てくれるというものです。</p>
小笠原会長	<p>時間的には1時程度の内容となるのですか。</p>
鳴海総括主査	<p>そのような感じですが。なお、講師の選択については、町が自由に決めることができるようになっております。そのようなことで、実施にあたっては、北海道のすこやか北海道21の策定に関わった方に依頼してはと考えております。</p>
メンバー	<p>今お話があったように、経費の負担を見ると講師の謝金と旅費をこの財団が全</p>

	<p>部面倒を見てくれるということですね。</p>
<p>鳴海総括主査</p>	<p>そうですね。町の方で用意するのは会場と参加者の確保ということになります。ただ、資料代については町の負担となります。</p>
<p>メンバー</p>	<p>そういう意味では、会長が話されたように、このような計画を策定するにあたって町民へ周知を図る上で、北海道の計画を知らしめることができるので、意思表示することはよいのではないかと思います。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>それで策定スケジュールを見ますと、町民に対するアンケートということも含まれています。</p> <p>ですから、そういうアンケートを実施する前に行うのか、それとも7月は参議院選挙もあり役場も何かと忙しいので、10月の会議の前に行うのか、などどうでしょうか。</p> <p>まず、手を上げることでよろしいでしょうか。</p> <p>(了承する旨の声あり)</p> <p>開催時期などについては、事務局に一任することをご了解願います。</p>
<p>メンバー</p>	<p>できれば、7月の選挙の後や健康フェスティバルと重ならない日程で調整ください。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>そうですね。その辺の日程につきましては、事務局にお願いするということでもよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしという声あり)</p> <p>今回のこういのですね。健康づくり、自分たちの町だけ、おらが町の健康づくりをしようというような案を、多分、健康フェスティバルをここ7～8年続けて実施しています。これは町内のいろんな関係団体の協力を得まして、大変大きくなってきています、実行委員会を組織してやっています。</p> <p>それで町民の方々にも少しずつ浸透してきていますが、まだまだ不十分で、参加者が300人を超えてきていますが、人口の1割程度の500人前後が会場に集まるようなイベントにできればと考えています。</p> <p>フェスティバル自身も消防、医歯会や行政も含めて、救急の日から健康まつりとして立ち上げたものです。そして少しずつ輪が広がってきたからという感じです。そうした中で、一人ひとり自分の健康を、そして家族の健康をみんなで考えていこうということが、基本になるのだと思います。</p> <p>そういう意味で、この健康づくり策定もその延長線上で考えていけば、いいのかなと感じております。</p> <p>あともう一点、国保ヘルスアップ事業について、先に広報と一緒に各家庭に配布されましたが、これ私も一部加わったのですが、このなかで、たった3ヶ月程度ですが、さらにお正月を挟んでなんですが、参加した方の、いわゆるメタボリック・シンδροームを基準とした、動機付けといいますが、積極的支援といえますか、これらは来年以降に、特定健診や保健指導へ入っていくような定義づけに福島としてはなっただのではないかと思います。配布の資料に書いている以外の女性の方で、これが始まる前は、メタボに該当する方が3名ほどいましたが、この3ヶ月、実は2ヵ月半程度なのですが、ひとりメタボから脱メタボに、もう一人の方も脱メタボに、3人のうち二人が完全に脱、しかも正月を挟んでいますので、栄養士さんの指導を守った結果だと思えます。</p> <p>体重とか血圧、コレステロールなどが改善しました。そのような認識の方が町民の中におります。</p>

<p>鳴海総括主査</p>	<p>大変いいことだなと、今年も実施するのですよね。</p> <p>今年も実施の予定です。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>そのようなことで、将来的には特定健診や保健指導の方へ移行されていくのでしょうけれども、そういうことで実績として福島町でもやればできるという実績があるものですから、そのようなことを踏まえれば、この健康づくり推進計画は、自分たちの町の健康づくり計画ということを書いています。福島町が持っている特性といいますが、この海岸地域が持っている特長といいますが、そういった特性を生かした計画もできるのかと考えます。</p> <p>そのようなことで、みなさんも自分のことと思って、自分の子ども孫のことを考えて計画を作りたいと思います。</p> <p>僕も含めて知らないことが多いので、簡単なことでも良いですから、みんなで言い合えるような会議にしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。</p>
<p>メンバー</p>	<p>このような機会ですから、私も少しメタボを超えるくらいですが、この会のメンバーから脱メタボをめざすことも重要なのではないのでしょうか。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>今意見を頂きましたが、実は私も健康フェスティバルの実行委員会を3年前に立ち上げましたが、その席でまず、体重を痩せますと宣言しました。</p> <p>それ以来食事に気をつけました。運動はなかなか継続できないのですが、食事の方は気をつけるようにしてから3年になりますが、7キロ減量できました。また、毎日体重をチェックしています。ですから毎朝体重計に乗っています。</p> <p>また、先ほど話したヘルスアップの方も毎日体重計に乗っていると思います。</p> <p>男性二人のうち一人はメタボに入るんですね。肥満、お腹周りですね。85cmですからね。</p>
<p>メンバー</p>	<p>メタボでない方の日本人の成年男子の半分は85cm以上となっています。だから厚生労働省の基準数値は間違いで、ほとんどの内科医がそう云っています。</p> <p>そこばかり注目するとだめで、もっと全身、全体を見て判断しないとメタボの診断はできないというふうになっています。</p> <p>生活習慣病などを総合して、このひとはメタボという判断をしなければならぬと思います。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>最後に、会議案内と配布されました「すこやか北海道21」に、なにをしたらいいの～いつまでも健康で暮すにはどうしたらいいの、がんばらなければだめなのとか、これまではカロリーや塩分を控えましょうと、なにか命令的な健康づくりで、なにか我慢しなければならないようなイメージでいたのですが、アクションプランということで「すこやか北海道21」であれば、もう少し楽にできるのではないかということを書いた本ですね。そうしたなかで、今まではとかく役場のほうから言われたとか、何か上からきたような健康づくりの話を受けていたのではないかなという気がします。</p> <p>これからは町民それぞれが自分達の健康のことを自分で考えて、それをこういう会議など、また、行政の方へあげて行って、健康的な町づくりをしたいなと、自分の健康を守っていききたいなと、というようなボトムアップ的な考え方でできればなと思います。</p> <p>次回はまた、具体的な資料により、皆様のご意見を頂きたいと思いますので、各団体に帰りましたらそれぞれ意見をつめてくるなりしてください。</p>

後、特にご意見等がないようですので、第1回目の会議はこの辺で終わりたい
と思います。ありがとうございました。

～閉会20:09～